

西アジア死海地溝帯におけるネアンデルタールと 現世人類交替劇の総合的解明

赤沢 威 (高知工科大学 総合研究所 教授)

【概要】

本研究は、現代人起源論争の最大の舞台である西アジア死海地溝帯にかつて生存していたネアンデルタール(20?4万年前)、プロトクロマニヨン(10?4万年前)、クロマニヨン(4万年前?)を取り上げ、いまだに議論の絶えない彼ら三者の間柄を、同地域で蓄積されてきた考古資料及び化石人骨資料の総合的・多面的・先端的な解析分析、多数のネアンデルタール人骨の発見されたデデリエ洞窟の調査によって検討し、現世人類の起源に関して新しい具体的モデルの構築を目指す。

本研究の中核をなすシリア・デデリエ洞窟の発掘調査を15シーズンにわたって実施し数多くの重要な学術データを蓄積してきた。本研究は、これまでに蓄積した学術データを集大成するとともに、デデリエ洞窟の新データと他遺跡関連資料との比較研究を通して、4万年前の西アジアで何が起こったのか、ネアンデルタール社会に何が起こったかを論じ、現世人類の起源論争に対して新たな視点を呈示する。

【期待される成果】

ネアンデルタール・プロトクロマニヨン・クロマニヨンの系譜関係の解明に向けて、化石人類の頭骨・脳の仮想精密復元に関する方法技術の確立とともに、同技術をもって復元される三者の精密復元頭骨及び仮想復元脳をもって、彼らの行動・頭骨・脳の三要素の有機的关系を検証する。特に、頭骨・脳の左右差と行動の所産物との関係を検証し、言語能力獲得の歴史的背景についての新知見の創出を目指す。

【関連の深い論文・著書】

T. Akazawa, S. Muhesen, Y. Dodo, O. Kondo, and Y. Mizoguchi 1995. Neanderthal Infant Burial. *Nature* 377: 585-586

T. Akazawa and S. Muhesen (eds.) 2003. Neanderthal Burials: Excavations of the Dederiyeh Cave, Afrin, Syria. Auckland: KW Publications Ltd.

【研究期間】 平成 17 ~ 21 年度

【研究経費】 79,500,000 円

【ホームページ】 <http://www.kochi-tech.ac.jp/akazawa/index.html>